

上 金田保育園で交通安全教室
上手に渡れた横断歩道

6月18日に金田保育園で交通安全教室が開かれました。田川署の白バイ隊員の講話を聞いた4・5歳児58人は、町交通安全推進委員が準備した横断歩道を渡りました。手を上げておまわりさんとの約束をしっかりと守った園児たちは「今日は上手にできたと思う。本当の道ではもっと上手に手を上げたい」と交通安全について意識を高めた様子でした。



↑信号が青になりました。教わったとおりに左・右を見て手を上げる園児たち。

↑「あしたの給食が楽しみだね」。コツをつかみ、手際よく作業する児童たち。



自 金田小2年生が給食のグリーンピースを準備
自分たちのむいた豆が600人分の給食に

金田小2年生107人が5月19日、生活科の授業でグリーンピースの皮むきを体験しました。栄養士の松井和美先生の指導で豆とさやを分けた生徒たちは「みんなで協力したからすくじできたけど、いつも少ない人数で給食を作る先生はすごい」と感心していました。この日準備された豆約20kgは翌日ピースご飯に調理され、全校児童や先生の給食になりました。

↑虫が飛び交い、幻想的な光景が広がった会場周辺の様子(20時23分撮影)



上 蛸とランプのタベ
上野焼が光のステージを初演出

ホテルも見ごろの5月30日に「蛸とランプのタベ」が上野焼協同組合16黨元と上野の里ふれあい交流会館周辺で開かれました。今回が初のイベントは、各会場に上野焼ランプシェードが飾られ、同会館からホテルの観賞スポットまで約600mの道沿いに発光材入りペットボトル300本を並べて来場者を誘導。多くの人が訪れ、光の共演を見入っていました。

↑直径およそ15cm、葉っぱまで含めると30cmほどにも成長しました(6月2日撮影)

↑レース用の車いすを説明する洞ノ上さん。好奇心あふ盛な児童たちから鋭い質問が飛びました。



目 パラリンピック選手が上野小で講演
目標を持つことの大切さ

昨年の北京パラリンピック車いすマラソンと5千mで5位入賞を果たした、洞ノ上浩太さん(飯塚市)が上野小を訪れました。バイク事故を乗り越え、世界で活躍する洞ノ上さんは、障害のこと、大切な仲間たち、車いす競技やトレーニングなどについて、映像を交え分かりやすく講演。「歩けなくなったときは絶望的でしたが、競技を支えてくれる人との出会いのおかげで目標に向かって一生懸命生きています。みんなも目標を持ってがんばってください」と力強く子どもたちに呼びかけました。

レ コンクリートのすき間からレタスが発芽
レタスが見せた「ど根性」

道行く人が思わず足を止めるほどに頑張っているレタスが評判です。3月ごろ、砥綿弘子さん(伊方)宅のコンクリートにある、2cmほどのすき間から草が生えてきました。雑草の



ようだったその草は巻き始め、5月ごろにはレタスの形になりました。その後すくすくと育ち「ど根性レタス」の愛称でご近所からも愛されています。砥綿さんは「摘まずにずっと見守りたい」とレタスに優しいまなざしを向けていました。

大 児童センター「親子で紙ひこうきを飛ばそう会」
大人も子どもも夢中になった

6月14日に児童センター遊戯室で「親子で紙ひこうきを飛ばそう会」が行われ、約30人の親子連れが参加しました。今年で3回目となったこの行事は、講師の永未宏之さんの指導でハサミやのりなど一切使わない「折り紙飛行機」を3種類作成。真剣な表情で制作していた参加者は、完成した飛行機が飛ぶと、大人も子どもも一緒になって歓声を上げていました。



↑勢よく飛び出した紙飛行機。この日は室内での滞空時間を競いました。

↑ボールの行方は…。チームメートがかたずをのんで見守る中、緊張の一投。



的 老人クラブベタンク大会
の目がけて慎重に

町老人クラブ連合金田支部主催ベタンク大会が、ふれあいイベントパークで開かれました。ベタンクは、木製の目標球(ピュット)に金属製のボールを投げ合って、相手より近づけて得点を競うゲームです。参加した27チーム約100人は、敵味方の区別なく声をかけ合って親善を深めていました。【結果】優勝・神崎二C、準優勝・神崎一C、3位・神崎二A